

圖  
書  
寮  
本  
畫  
工  
便  
覽

宮内省圖書寮に新井白石自筆本と稱する畫傳三種が收藏されて居る。即ち『畫工便覽』『本朝畫師』『畫家系圖』の三本がそれで、其中『畫工便覽』を先づ本誌上に活字に移すこととし、他の二本は是れを次號に公刊せんことを期して居る。公刊に際して例の如く解題一篇を附載すべきであるが、是等の三種は等しく白石自筆本として、共通の多少の問題を有するもので、各別の解題を困難とするものがあるから、次號に他の二本を公刊すると共に、是等を一括して私見を加へたいと思ふ。そは免まれ、在來の流布本畫工便覽以外に、全く内容を異にした此の圖書寮本が傳存して居たことは、在來殆んど知られなかつた事であると共に、特に本書が此の一書の撰述當初の形であらうと想像されることに於て、畫傳書史上に於ける一收獲とすることが出來やう。今、公刊に際して一二の注意を云はゞ、讀者の翻閱に便にする爲め、多少原本の形を改めた以外には、出來るだけ原本に忠實なることを期し、二三の誤字と思はるゝものも、底本を尊重して漫りに訂正することを避けた事と、括弧内の文字は校訂者の加へたものである事、及び各項目上部の批點と、二三の側線とは朱を以て加へて居る事を注意するに止める。尙、本書中『畫工便覽 上』があつて『下』の目を缺くことは稍解し難いが、或は元二冊に分冊されて居たものを抄寫の際に不用意に書き落したものと想像される。本書現在の形式は半紙本袋綴、墨附三十七枚を有して居るが、是れが零本でない事は、所收の畫人の、流布本と殆んど一致し、其の序次をも亂して居ない事によつて明かである。(田中)

畫之巧丹青之妙世亦有其人焉狀古者善畫徒有其名而未聞其畫傳于後也故今斷自上宮太子以降歷代名蹟有可得而觀焉者凡三百餘家略敘其事云爾

畫工便覽 上

卷第一

、厩戸太子 善畫一日遊四天王寺俯窺龜井影在水中就取楊枝摸寫其影寺寶楊枝影是也其餘所畫藏在法隆寺猶多

、音禱 天武六年五月朔畫師音禱授小仙下位乃封二十戶日本書紀

、施基皇子 和州多武峯藏其所畫者

、祚連 天武九年就其入定所見龍宮圖見釋書卷廿一

、爲憲 三寶繪見袖中抄袖中抄卷三云爲憲か三寶繪にも藥師寺は清見原の母后の御ために立行へる所なり

、忍勝 靈龜乙巳年從六位下畫師忍勝改爲倭畫師見續日本紀第六

、楯戸辨麻呂 天平壬子年畫師楯戸辨麻呂賜正七位見續日本紀卷十六

、河內繪師 天平寶字三年十一月從五位下河內畫師賜姓御枝連續日本紀廿二

、中將姫 右大臣豐成女善畫繡佛像寶龜六年三月十四日逝

、太神仲江麻呂 延曆十年從五位下太神朝臣仲江麻呂爲畫師正續日本紀四十

、僧最澄 善佛像

、釋空海 妙畫佛像

、眞如親王 所畫佛像藏在高野山者不少三國傳記卷一云高野山影堂大師像眞如親王所寫大師親自執筆閉眼者

、基光 越前守賴成子敘從五位上歷官內匠頭越前守最工彩畫相傳家居東大寺

、珍海 基光子三論宗已講亦善畫

、隆能 正五位下主殿頭世稱姉小路爲繪所預乃是繪所始尤爲名手

、隆親 隆能子從五位下伊豫守中務少輔爲繪所預

、行智 隆能第二子土佐氏世繼其氏

、藤原內麻呂 親寫不空四相不空四相索及護世四天王像施入諸寺

、小野篁 最妙草隸兼善丹青

畫工便覽引

昔在神世天戈一畫滄海東方畫跡固已始矣降及人皇雄略七年百濟貢畫部因斯羅我崇神元年百濟復貢畫工白加乃至推古十二年始定黃書山背等畫師元正養老三年勅令畫師把笏先是推古十八年高麗僧曇徵來能作彩色文武二年近江伊勢安藝長門等國始出朱砂白礬金青綠青三年下野國產雌黃蓋其圖

在原行平 攝州須磨寺藏其所畫者

在原業平 和州不退寺像其所自畫者 見稱名院南都紀行又伊勢物語載其畫鵲題歌事

釋圓仁 善畫佛像慈覺大師是也

卷第二

巨勢金岡 本邦名手也

巨勢金高金持 並善佛像人物而世所傳者少

相覽 金持子

巨勢金忠 金岡之後也

百濟河成 仁壽三年卒

源信 好畫花鳥人物池邊大臣是也

釋道昌 畫師 釋書卷三釋道昌姓秦氏讚州香河人幼出家學三論一日宴座虛空藏菩薩現衣袖上昌乃藏袖圖之安法輪寺貞觀元年爲三會講師十六年爲僧都十

七年二月寂

釋圓珍 好畫佛像和州長谷寺藏黃不動像即其所畫者知證大師是也

藤原淑幹 下總守櫻麻呂子內麻呂五世孫也官至內藏頭從五位下尤善書畫干

陰淑幹子

宇多天皇 畫白氏長恨歌圖乃勅紀貫之伊勢令書其詞 見桐壺卷

藤公伊尹 善畫 後撰集五公手畫鬼形題歌以贈伊勢云こひしくは影をたに見てなくさめは我うちとけてしのぶ顔なる返し影みれはいとと心そまとはるゝちかからぬ氣のうとき也けり

五條御 中納言山陰女善畫 大和物語に五條御火中に女の姿を繪にかき其烟をくゆらしめて歌をかきつけ男の許に送り侍りその女はわかた也君を思ひなまし身をやく時は烟多かるものにそありける

僧圓深 世姓紀氏丹後守寬印子 光孝帝裔 世稱朝日阿闍梨善畫與巨勢金岡齊名

菅贈大相國公 親寫眞像藏在宰府世亦傳其所畫像往往而有威靈焉

藤經信 尤善書畫

紀文正 貫之孫時文第三子最工書畫

玄上 從三位中納言諸葛子善琵琶亦好丹青歷官中務太輔左中將承平三年正

月卒年七十

道風 善書亦能畫

僧延圓 藤義懷第六子寬和二年六月出家爲僧居三井寺世稱繪阿闍梨丹青妙

手也

僧靜尊 藤關白道長之後也號七重禪師善畫草花亦自題讚

千蔭 淑幹子兼善書畫上題贊官至內藏頭

爲氏常則 時稱一雙畫手爲氏未詳常則飛鳥部姓任左衛門少志云 榮花物語卷八云御屏風

ともの繪は爲氏常則とか書て道風こそ色紙形はかきたれ

飯室阿闍梨 其名未詳兼得佛像人物及山水之巧 榮花物語卷廿二云藥師佛の御前の心を繪にかきたまへり六觀音の御前の方の柱には觀音品の偈の心をかきたまへり飯室のあさりの手をつくしたまへるほとおもひやるへし

千枝 不知何人世稱善畫 源氏須磨卷に此頃の上手にする千枝常則などをめし

藤關白實賴 稱小野宮殿下蓋善畫也 世繼物語に故中關白殿東三條つくらせ給へり御障子にうた繪なとかかせ給ひし色紙形を

此大貳にかけとのたまひし

釋良源 自畫其像世稱元三大師像是也 釋書第四

延源阿闍梨 長保中上皇勅源畫性空像 事見釋書第十二性空傳

深江廣高一作 巨勢金岡之後也善佛像人物 榮花物語第六廣高か歌繪かきたる草子に行成の君歌かきたるなといみし

うおほし御覽せらる

一條院 善畫亦寫佛像 枕草子卷三云うへより御文もてきて返事たゝ今と仰られた見へす手のかきり笠をとらへさせて下に三笠山このまあけし朝よりとかみせ給へり猶はかなきことにてもめてたくのみおほへさせたまうそはつかしく心つきなきこと

はいかて御覽せられしとおもふにさる空ことなどの出くるはくるしければおかしうてことかみに雨をいみしうふらせて下に雨ならぬ名のふりにけるかなさてやぬれ

こそには待らむとけいしたれは左近の内侍なとにかたらせたまひてわらはせ給ひけり

清少納言 清原元輔女上東門院宮女善歌亦善畫

紫式部 越前守藤爲時女上東門院宮女善歌善畫自寫其像題亦有亦空門非有

非空門十字並歌二首安于石山寺後失其像可以惜已 近時藤公信尹命工圖像自寫贊辭施入其寺

師足 樂府屏風畫者官爲皇后大進蓋一條院時人 大鏡卷三云關白殿の一とせの臨時客にあさりゑひて御座に



居ながら立ちあへ給はて物つきたまへるにこうかう宮のもろたるかかきたる樂府の屏風にかゝりそこなはれける

釋平願 播州人性空弟子善畫佛像 釋書

釋良基 右中辨藤輔尹第三子居三井寺世稱繪阿闍梨寬仁四年十一月寂年四十一

十一

聖觀阿闍梨 仁和寺僧善佛像人物式部少輔忠倫子也

藤賴祐 善畫官爲兵衛佐 榮花物語卷廿四云四尺の屏風の繪常則なんと書たるは古代たるへしひろたかよりすけなとかかきたらむはなをあらぬ所あるへし

惠心僧都

尤工書畫有佛像及地獄變相圖

釋智光 元興寺僧所畫淨土圖藏在元興寺世爭摸寫焉 事詳釋書第二

阿闍梨公 不知其名智證弟子善畫最精佛像

後一條女御

御堂關白道長女尤善書畫萬壽二年三月薨 詳見榮花物語十七

小野宮右大臣實資女 善畫圖 榮花物語三十六云右大臣殿のひめ君内にまいらせ繪なといとめてたくかゝせたまひおとこ繪なと繪師はつかしうかゝせ給ひてゆひひしうおかしうおはします云々舞臺はたゞ色々にいろとりたるかゝれたるいとわか

しものものと兵衛の佐かかきたり右はかねのすきはここにさうとをいれたり歌の心はへを題にしたかひつゝした繪にかきたり

諸元 其姓不詳官爲兵衛佐善畫 右の註に見へたり

大進賴經 其姓不詳善畫

藤威子 關白道長女上東門院女弟學畫於遠賴經善寫佛像長元九年九月卒 榮花物語廿三云中宮里におはしませはうちよりとくゝいらせ給へきよし御せうそくた

ひゞになりぬれは年頃多寶の御堂を一尺はかりにつくらせみかさ立させ給ひてや

かて御持佛にと覺しをきてせさせ給ひけりてき給ひければ此供養せさせ給はむと

てその御いそぎ也けり萬壽元年九月廿三日より初させ給ひて其内に釋迦多寶ならは

せ給へり表紙の繪に經の内の心はへをみなかゝせ給へり遠のよりつね

かいみしうさいくの心にいれ手をつくしけむといみしうめてたし

文慶 岩倉僧善畫祖師 系譜云文慶法印大和尚號大雲寺別當菩提坊工畫 祖師父正五位兵衛佐理郷永承元年六月三日寂

釋仁海

小野曼陀羅寺開山僧 空海八 永承元年寂所畫佛像多在和州宇多郡室

生山焉

永意 善畫佛像 永意父尤工佛像康平六年七月死 姓名不詳世稱以爲金岡蓋謂其妙工也

藤光定 和州教信寺緣起其所畫者署尾云大納言藤原光定未知其人也

右京大夫 建禮門院官女後稱夕霧尼尤工佛像修理大夫藤行能女也 大夫家集云人も世

畫工便覽

にかたからへてなに事も道廣からしなと身ひとつのことに思ひなされて悲しければお

もひおこして反古張り出し料紙にすかせて經うちかき又さなからうたせで文字の見

ゆるがまばゆければうらに物をおしかくして手つから地蔵六體をすみ繪にかきま

らせなとさま／＼心さしはかりしられすまた人めつゝましければうとき人にもし

れすこゝろひとつにいとなむかなしきもなをたえかたし すくふなる誓ひたのみ

うつしおくらす六の道しるへせよなく／＼思ひねんしあせう上人の御許へ申つけ

て供養せき

僧覺圓 關白道長第六子尤工書畫承徳二年四月十六日寂年六十八

僧覺融 世稱鳥羽僧正所畫人物畜獸而已洛下東寺有畫軸一卷

僧行尊 小一條院御孫源基平子累補三井長吏天臺座主天治中爲大僧正嘗夜

夢見柿木太夫明早自畫其像人麻呂影以是爲始世稱行尊樣畫家摸做焉保延元

年二月寂 釋書十 二有傳

源賴員 好畫佛夢見一僧教之曰子當寫釋迦多寶二佛以結來緣覺後隨喜敬奉

其教後結草庵於南都而居焉 鳥羽院 時人

藤顯季 元永年六月新圖人鷹小像令大學頭藤敦光作贊

僧覺鏡 肥前人其先平將門之族也初造紀州根來寺康治二年十二月寂年四十

九善畫佛像 釋書第五 有鏡傳

忠平中將 不知何人扇面畫鵲每其扇開有聲而啼事見源平盛衰記

式部 平太夫繁兼女善畫時稱繪式部

圓心法師 畫難于宇治關白家中門曉天報時者數矣事出源平盛衰記

藤俊成 從三位皇后宮大夫畫繪題贊其子定家亦好畫

寂蓮法師 俊成弟俊海阿闍梨子亦好畫

嚴信法印 繪師也其父行嚴南都人 後白河 時人

平相國清盛 修建高野大塔其金堂曼陀羅在東者清盛所畫在西者令繪師常明

法印畫焉

清盛第 女 初嫁中納言藤成範後爲左大臣兼雅室妙畫入神 初畫風竹于紫宸 障子後有簾聲時

花山

四三

卷第三

奏殿中有人竊視之則畫中鳳鳴也出平家物語

清盛第六女 爲修理太夫藤信隆妻 號七 善畫

清盛第八女 爲大納言藤有房室尤工書畫 號御方 親自畫障子而題色紙形

僧妙覺 幼名六代平維盛子年十六源賴朝將殺之僧文覺救死爲僧正治二年遂所殺妙覺善畫佛像 覺嘗上高野遂赴熊野尋到其父投水之所畫諸佛像海濱砂上誦經念佛追修冥福而還

中納言藤成範女 號中納言局善彈琵琶尤工書畫

常明法印 和州人善佛菩薩及地獄變相圖其所畫諸寺緣起往往而有

藤鎮守將軍秀衡 善畫 無量光院壁狩獵圖 秀衡所畫出東鑑

藤爲久 豐前守爲遠子丹青之妙時稱無雙官爲下總權守 事詳東鑑

僧承澄 爲横川長吏號小川僧正正二位内大臣師家子善畫佛像頗似金岡

藤隆信 皇后宮少進爲隆子善人物草花官至正四位下右京大夫元久二年卒

藤信實 隆信子官爲正四位右京權太夫承久三年七月後鳥羽上皇勅令寫御容

信實嘗夢人麻呂即圖其像畫家所傳人麻呂像有尊信實二樣 衣冠幾凡者行尊樣也又有三十六人歌仙圖傳到于今

藤爲繼 信實子中務太輔

伊信 爲繼子正四位右馬頭

爲信 伊信子從四位刑部卿其子豪信法印山僧也亦以畫名于世

信尹 伊信弟子善人麻呂像

平直實 世稱熊谷二郎也後出家爲僧名蓮生自寫其像安于武州熊谷寺承元二年九月十四日寂年八十三

平時範 歷官至右大辨正四位下天仁元年冬棄官爲僧名定惠次年正月謂人曰仲春我去至二月五日修彌陀護摩法華懺亦圖金色不動像十日病革念彌陀寂年

季長 其姓不詳修理少進善畫 見東鑑 建久三年十月畫永卷十二 福寺屏并佛後壁

西行上人圓位 頗善圖畫 撰集抄卷九入滅僧條に永曆の末八月の比信濃の國さのいそそかりけるに立より見ればねむれるやうにしていきたへたる人なりあはれに覺

一町あまり來りぬらむとおもふほとに木の葉をさしをひて六十あまりにたけたる僧

えて涙をのこひておろ／＼かのすかたを繪に書とよめてとりて後烟となし奉りて野邊の聖のかたへ行て見ればかれもかうへかたむきたまひしかは同じく姿をうつしとよめてをなし火にてやきあけて其夜は野邊にとよまり念佛して骨をひろひて高野にかりのほり侍らむとおもひ定けり

宅磨爲行 爲左近將監 東鑑 廿八

僧勝尊 號金剛院僧正善工書畫 村上系圖云勝尊僧正號金剛院悉曇師 圖繪名人也仁治元年四月寂年六十九

十輪院通龍 善畫佛像其所畫藏在和州長谷寺

慧日坊 明惠弟子瑞泉寺色紙形殿之屏畫二菩薩及彌陀像

俊英阿闍梨 不知何人也所畫藥師佛及十二神將像甚有神異祈之有驗

平時頼 最明寺是也好畫佛像

釋道元 好作墨繪刻本一葉觀音像即其所畫世傳北海商舶安置其像則無遇風浪之難矣 釋書第六 有道元傳

釋元翁 世姓源氏越後國人爲道元弟子世傳破碎殺生石者也好畫佛像施入諸寺

釋範宴 初名綽空世稱親鸞上人好畫佛像今世所傳唯有正面阿彌陀像而已

釋是生 世稱日蓮上人尤工書畫下總國法華經寺藏小寶塔圖上總國鷲山寺藏其自畫像筆意設色並皆精妙弘安五年十月十三日寂年六十一

吉光 不知何人善畫神佛及人物駿州沼津妙海寺藏畫二幅即天照八幡二神日蓮題贊者也

長隆 越前權守從五位下後宇多帝時人花草鳥獸皆極其態設色如生於後視髮號姊小路法眼快心又稱法輪院繪師

長章 越前守從五位下即長隆子也亦善花鳥人物

釋寂尊 律宗僧號恩圓坊正應二年閏七月三日勅賜與正菩薩三年 大寺 月寂和州大五輪寺藏有摸寫嵯峨釋迦及影像其餘所畫猶多

託磨永實 敘法眼位所畫佛羅漢像最爲精絕樹石次之世稱以爲託磨樣即此

永俊 住吉神職也尤妙佛像世稱住吉法眼者是已

僧一山 元人也善畫佛

僧雲巖 名法源宗峰弟子善書畫

○僧可翁 名宗然南浦弟子善書畫學李安忠兼以玉洞牧溪  
、僧師鍊 號虎關東福湛照弟子世姓藤氏洛人好畫佛像

○智首座 東福湛照弟子尤工丹青嘉曆元年春衆請師鍊講心論時鍊年□九秋七

月智寫師像因自題贊九月九日又畫楞伽勝會圖令鍊作贊

○崑首座 虎關弟子善墨繪好畫佛

○源將軍 善寫地藏王菩薩像鎌倉寶海寺藏其所畫者太平記載建武二年自筑紫

入京日親寫觀音像以貼帆檣

、僧兼好 卜部兼顯第三子其所畫有管神像焉

○隆光 民部卿法眼家洛東粟田口因稱粟田口法眼佛像人物盡皆絕妙

○寂濟 稱前兵部少輔入道

○藤光國 前繪所備後守

○永春 繪所預太夫法眼

○行秀 繪所預修理亮

○行廣 繪所預土佐守 已上五人嵯峨融通念佛畫者

○經光 粟田口法眼子與父同工所畫花草傳采若生

○承天愚溪 本覺國師法孫畫學牧溪好寫祖師及人物

○夢窓疎石 世姓宇多源氏勢州人也好畫觀音及花草

○明澤 甲州人生而三歲其母投之妙澤池不沈三日夢窓以爲弟子自幼好畫不動

像後還甲州州中其所畫者存

○藤光季 洛人任飛驒守畫學隆光好畫人物頗多豐體最精馬形

、眞成 少納言隆仲子好畫管神冠帶坐圓座像

、後光嚴院 好畫花草鳥獸題詠和歌

○源義重 稱斯波治部大輔善山水花草鳥獸

○秀文 明人也後爲曾我氏女婿家于飛驒州世稱唐人秀文善人物花草山水

○藤光長 越前權守年中行事畫本其所畫者也

○藤光正 光長子官爲左近將監

卷第四

○僧明兆 淡州人號吉山稱赤脚子又稱破草鞋子東福大道弟子爲殿司職而住南

明院性耽畫圖以寺本無佛涅槃像爲恨意欲求畫本於海外忽遇一僧稻荷橋畔即

自取一畫軸于懷中以授之曰我今欲代子萬里之行言訖失其所在就而視之則佛

涅槃圖本也兆喜特甚而囊中無錢可買丹青適見寺東河水暴漲漂下綵石五色分

明乃收拾研細以充其用光采最奇遂摸得佛涅槃像一幅又圖觀音應現三十三幅

五百羅漢五十幅并藏寺庫又畫龍及頻伽鳥于佛殿板壁上龍頭大二丈身長一十

八丈及兆寂後化僧所授圖本亦失所在天正中一日天雷畫龍騰躍擊雲而去唯有

頻伽而存耳羅漢像亦失其二幅近時後陽成帝勅賜奎藻所繪以補其闕焉

○僧如說 說一作雪又作拙 號亂芳軒東福僧學兆殿司而不事形似專要神氣生動但其所

畫世傳不多世稱藤祐清亦倣其法也

○一之 東福僧也師兆殿司善得其法世稱以爲殿司者多是一之所畫也佛像花鳥

深造其妙

○永存 河內觀信寺中蓮嚴寺僧也師兆殿司善畫佛像花草翎毛尤佳

○周文 字等慶丹青之妙冠絕一時嘗學如說時出新意自成一家世稱周文風多畫

人物山水 世傳應永二十一年正月八日其師如說以畫譜君臺觀授焉即是畫家祕要也

○愚極佛心 南禪僧也尤善書畫畫學明兆筆意生動如寫草書

○敬心 不知何人學可翁畫

○藤光顯 任右近將監應永間人最長畫學稱爲名家古者畫法亦得其傳矣

○相保 世稱海田采女佑丹青之工自成一家人花草水石皆極其妙後世學者多取摸

範耳

○一休宗純 好作墨畫乃自題贊山城國綴喜郡酬恩菴師開基地也寺中所藏書畫

頗多亦有畫像傳采若生自號狂雲子文永十三年寂

、牧濟 一休弟子住酬恩之禪玄菴善人物山水

。玉腕子 號梵芳天龍妙葩弟子善工草花

、源義持 勝定院殿也善墨戲所傳于世亦自不少

、後花園院 御畫聖賢像及花草設色尤妙

、源義政 東山殿下也尤好圖繪宗常牧溪間亦有小畫猶傳于世者

。真相 號相 號能 號藝 號藝 並為東山相府倅臣 披染如僧 稱爲童坊 公愛玩書畫其它

凡百器玩所蓄甚多三人幹當其事尤能鑒別皆極精當當時好事假其耳目上下物

價耳亦皆能畫宗夏珪牧溪真相筆意最爲超絕

、靈影 不知何人頗學明兆好寫菅神影

。宗玖 如說弟子宗孫君澤好寫山間景趣尤佳蓋一變師法者也

。宗堪 小栗氏周文弟子專工傳神多作著色花卉翎毛

。等源 香嚴院主東山相公第四子也初學周文後做唐宋其所畫者紀州高野山藏

頗多

。雪舟 名等楊稱楊知賓備中人也應永廿七年雜染爲僧掛名於相國鹿苑之籍自

幼好畫學如說及周文遂變其法自成一派寬正中遠游跨海而到四明爲天童第一

座東歸後暫留筑紫遂住防州山口雲谷寺因稱雲谷 一云雲谷在于丹州 或曰舟居

備後州時稱備溪亦到藝州佛通寺年八十七以永正三年而寂 相傳長祿二年三月十日其師周文授畫譜

君臺觀於南泉 寺中描真院云

。相泉 泉州人師周文

。佐野及兵部侍從 不知何人皆做周文

。良因 號雲甫筑前人師做周文印文良因

。周孫 善學周文所傳于世不多

。等簡 宗周文尤工山水草樹方印其文用名

。秋岳 字林周自少甚好圖繪中年學周文法遂忘寢食而後自識其難到乘擲筆研

口不言畫矣

。周耕 號扶桑東順居住和州師做周文

。藤顯定 上杉氏世稱山内管領善畫有趣永正七年六月戰死于信州長森原年五

十七

。周之 不知何人善做周文其畫不多

。宗栗 宗堪之子洛下大德龍翔院藏所畫者多人物及花鳥尤佳

。等觀 號秋月長州人南游爲僧東還歸俗師做雪舟善得其法而龍虎逼真其它人

物花鳥山水設色水墨盡皆精妙

。雲溪 住高野山學雪舟法

。等碩 不知何人頗與雲溪相類

。宗淵藏主 洛下相國寺僧師做雪舟

。等歲 不知何許人等楊弟子最精鷹鷲方印用名

。周惠 善學雪舟方印用名

。等梅 筑後州人游歷諸州後住高野山其所畫學雪舟法

。等巴 學雪舟法頗善山水

。鐵舟 天龍僧尤工書畫初學雪舟一變其法鳥獸山水善做宋畫 鐵或非也

。景齊 石州人善折枝水石學雪舟法

。息梅和尚 曹洞宗派越前人也彩繪水墨並做雪舟法

。照陽 字朱玉頗學雪舟法

。雪丹 雪舟弟子好用八鴿子作八幡大神像筆意亦妙

。蒲雪 不知何人雪舟弟子也舟曰蒲雪所畫形似而已不及寫意蓋其畫品亦可知

也

。拙宗 學做雪舟印文用名

。資騰 九州人宗馬遠佳甚

。雷蕭 不知何人好畫人物尤工鳥獸岩樹頗拙亦是師做等楊者耳

。巢南 不知何人嘗觀墨馬圖頗似真相兼有等楊法印文巢南

。登米水月 好作墨繪師做雪舟

。龍登 不知何人好畫鷹鷲兼周文雪舟二家之法傳彩亦妙印文龍登

。等清 奧州人以畫爲業師做雪舟或以爲雪村所畫亦有印文等清者未知是何人

也

。江南 字月船亦號遮莫好畫人物善做馬遠兼有雪舟真相之筆意在

○等禪 松浦人善人物山水草木學雪舟法

○隱西堂 相國僧善山水花鳥學雪舟法

○越後法眼 不知何人學畫雪舟其所畫者極少世傳文明八年三月廿八日舟師所授君臺觀於坂本田中村者也

○墨心 不知何許人善做雪舟印文用名

○宗珊 不知何人最得雪舟法其畫頗多畫上題名

○希材 號雲谷師做等楊尤工傳神畫上題名

○庭秋 下野州人最學等楊好畫松竹人物其它亦佳

○巢雪 不知何人墨繪山水善做等楊印文集雪

○雪崖 畫師等楊好作墨繪亦做朝鮮畫法

○義仁 初名義憲常陸介源義盛子佐竹實民部太輔藤憲定子上官爲右京大夫號竹

道尤工花鳥畫鶉極佳應仁二年十二月卒年六十八

○秋澤 筑前州僧兼善書畫畫師可翁尤工佛像所畫不多

○景風 不知何人畫學秋月

○盛雲 不知何人學於越後法眼世傳享祿三年三月十日法眼以君臺觀授盛雲焉

○康西堂 建長寺僧善畫佛像及人物

○啓書記 名祥啓住建長之寶珠菴康西堂弟子畫尤超絕貧樂休月皆其齋號也

○道安 和州山田村人故呼謂山田道安工畫花莫翎毛山水

○柴菴 不知何人或曰道安子也或曰禪僧也印文柴菴

○宗祇 號自然齋又稱種玉菴紀州人飯尾氏最長和歌聲名藉甚好畫其像題以贊

辭文龜二年七月晦日終年八十二

○後奈良院 御畫皆神像神采精絕

○楊月 建長寺僧學於祥啓亦做元信法

○春江 學於祥啓山水人物又做元信法

○夏桂 不知何人畫做祥啓工人物花鳥

○啓拙齋 相州人專師祥啓枯木花鳥山水並皆精絕方印用巫呂信吉四字

○相鑑齋 學於祥啓印文官南元信弟子有金玉仙字官南者疑是一人

○養月齋 不知何許人好畫花鳥師做祥啓兼有宗堪法

畫工便覽

○雪信 不知何人畫做雪舟元信二家之法

○可木 建長寺僧後住常之水戶人物山水學祥啓畫

○性安 常州大田講山寺僧人物花鳥與祥啓未易辨也

○蘭溪 後奈良院皇女尤妙彩繪雜用紅藍花色

○源定賴 大膳大夫高賴第二子世稱箕作彈正大弼是也頗善圖繪

○等周 不知何人大德之龍源院障壁墨繪仙人及猿鶴花鳥即其所畫者也

○窪田氏 其名不詳尤工小畫洛下感神院拜殿有所畫三十六人歌仙焉

○單王 不知何人彩畫墨繪皆爲精妙印文單王

○鑑貞 南都人善做宋畫尤工佛像方印用鑑貞字

○月丹 但州美舍郡人住圓通寺兼善書畫好寫管神像嘗在江州每用湖水調勻粉

墨善辨水色云

○雪村 名周繼號鶴船老翁又號如圭奧州磐城人居于田村庄春俗稱田村平三書畫雙絕東陸之間聲名藉藉山水似夏珪人物似李伯時草卉翎毛皆無不佳其畫龍虎自出新意種種變態以成一家好用奈須紙有一弟子名繼村尤能辨別紙墨以供其事而師無所授弟子亦無所受時人以爲一奇會津平盛氏授以畫軸式一卷題後

天文十五年五月日云

○西海枝字太郎一作左羽州山道小野領主也學於雪村善得其法

○在顏和尙 曹洞宗僧常州人學畫雪村

○等慶 奧州人善花鳥彩繪

○俊慶 不知何人師做雪村器類鄙俗東奧之州其畫頗多

○雪林春月 不知何人頗工山水學雪村法

○周德 稱都一郎野州宇都人山水學於雪村其它師做元信印文周德

○自宅 不知何人畫師雪村唯有山水花鳥而已

○等禾 常與之間其畫不少

○雪澤 奧州人常讀仁王經亦圖佛像

○雪山 不知何人好墨梅竹畫上題名

○等木 善畫佛像及艸花印文用名

四七

○雪洞 會津人畫師雪村頗失鄙俗慶長末寂

○雪閑 磐城人山水花鳥人物最得雪村法

○宗珪 不知何人畫師宗丹兼做唐畫壺印用名

○紹祥 曾我氏善畫人物花草最要寫生

○蛇足 曾我氏越前人尤善圖繪大德眞珠菴障壁其所畫也印文宗與

○盛資 稱謂吉次郎盛雲弟子善畫佛像 世傳永祿十一年五月雲授君臺觀於吉次郎

○信忠 不知何工善佛像亦能畫鬼魅觀者驚怖焉

○訓谷澤水 薩州人自少愛玩圖繪多蓄古畫而師做焉尤工水艸

○土倉氏 其名不詳南都人世傳畫法尤工佛菩薩羅漢像

○東澤居士 筑後州人善畫佛像及嬰兒常懷所畫有人請之則予焉

○特峯和尚 丹州萬松山惠日寺開祖也善畫釋迦達磨像

○監短 不知何人墨竹有宋人風但其所畫不多

○方願 不知何人兼善書畫師真相

○景則 佐知氏房州里見義弘部下人最工佛像

○後陽成院 天縱聖能繪事超絕管畫六馬於尺板上施入清水寺東福所藏五百羅

漢圖亡其二幅雲章昭回遂補所闕焉

○糠田氏 其名不詳 彥三 常陸州行方城主畫鶉尤妙州人所稱糠田鳴鶉是已慶長

初死子孫猶今在水戶

○源藝賴 號洞文濃州守土岐氏是也善畫鷹鶴後喪其國寓于甲州

○源直賴 號月菴濃之土岐氏亦善鷹但樹石非其所能也印文直賴

○快仙 不知何人好作鷹栖巖松圖鷹傲土岐氏樹石學元信法其印用團扇形

○休心 不知何許人畫學曾我法

○政吉 字淺利 金助 會津人畫鷹樹石尤佳

○宗丈玄仙 並是曾我蛇足後也畫花鳥人物

○直菴 泉州堺人尤工鷹鶴其它水禽花艸亦工

○喚舟 不知何人多蓄名畫粉本其所畫亦妙

○信繁 號逍遙軒武田左馬助是也甲州寺院藏其所畫者往々而有

○侍從 其名不詳京城僧也其畫尤佳 前有侍從疑是一人

○古岳 名宗再大德宗眞法嗣尤工書畫佛祖像及十牛九相圖並自題贊

○芝琳玄 南都人託磨氏後也所畫長谷觀音堂扉四天王像最得家法又觀東大寺

有古緣起五卷其三卷者芝之所畫也後敘法眼慶長中死有二子其一稱玄海上人者

長谷本願也

○芝侍從 琳玄長子善畫佛像

○周柑 居于高野山畫師雪舟多蓄粉本尤能鑑畫

○順專 高野山僧尤長佛像後受周柑畫本頗得其要年九十餘寬永中寂

○玄照 西海人工人物

○奉松 不知何人善佛像

○福賢 不知何人奉松弟子善佛像及人物花鳥印文福賢

○豐秀次 關白殿下也好畫人物鳥獸

○相泉坊 初居泉塚後在高野山下而終畫彌陀像好用金碧佳甚 前有相泉疑是一人

○達長老 不知何人好作墨繪率意有趣

○玄空 禪僧住于豐前州久保手中善墨畫

○化藏院 常州僧不知其名好作不動愛染等像唯畫其面及手足餘皆用梵字旋轉

合成最爲奇絕

○長利 不知其姓甲州士族畫文殊普賢二像

○良恕法親王 竹內 後陽成皇弟兼善書畫尤工草木山水寬永二十年七月五日寂壽

七十

○平信包 織田上野介也 善畫

○太上皇 聖諱 政仁 御畫尤妙

○堯然法親王 妙法院 善書畫尤工花草

○道晃法親王 聖護院 工人物花鳥最好墨繪

○藤公前久 號龍山 近衛關白 善書畫好作人麻呂像即題贊辭畫馬佳甚

○藤公信基 號三藐院 前久 人麻呂像及花鳥人物皆佳

○藤參議實滿 花園 善作雜畫花草設色嘗觀咫尺紙上畫源氏物語圖



龜谷兵部少輔 善作墨繪慶安初謫于肥後州

澤菴宗彭 畫師玉澗及牧溪

照乘 石清水社僧所謂瀧本坊也其氏中沼號惺惺翁又號松花堂老人書畫雙絕

好作墨繪人物花鳥皆佳間有著色寬永十六年九月十六日寂年五十六

豐藏坊 石清水社僧初稱一位畫師昭乘寬永末寂

長官大藏 不知其名南都人世爲畫工也善諸天菩薩像初居攝州大坂後還住南

都元和初死

昭定 菅沼左近將監 畫甚超絕

源信雄 河窪與左衛門 善畫鷹寬永十三年死

正時 宮崎準 善人物花鳥山水設色亦巧

貞治 號傳永居士 花井庄 畫鷹

勝興 福富仁 畫人物禽獸 本云山形義明畫師也 蓋謂羽州最上氏也

風外 曹洞僧也常隱豆州山中有時出遊不問近遠善畫達磨布袋等像書贊題名

寬永中寂

青柳掃部 不知姓名居住京師丹青之工名振一時 其所善者本邦畫 樣俗稱倭繪是也

照起 不知其姓名 隱岐加州人善花鳥人物

默堂宣長老 南禪僧也自少有丹青之好筆亦有趣抵老不復作畫

心靜 不知何人其所畫不可以爲法已

台機和尚 甲州法泉寺僧善佛像 寺則源勝 賴胤建也

和久氏 半左衛門 善書畫草花水石佛祖像皆佳 姓名未聞

小堀氏 遠江守政之女 池田重頼妻也 善畫嘗觀源氏物語圖最爲奇絕

玄陳 泉塚人 世稱連歌宗匠 善書畫

立甫 名親重京師人善花草鳥獸人物 貞德門弟誨 諸亦名于世

清巖宗渭 大德僧善書畫好作佛祖隱士圖

後光明帝 御畫亦妙 帝畫業平像御禁云かくもあらゝ姿はさこそうつすとも月は光をましまかゝねは以賜藤通純云也

梅宮 太上皇女善畫傳彩唯用紅藍花而已

一絲和尚 江州永源寺僧畫祖師及山水

卷第五

土佐氏傳世連綿中葉以降 其家漸衰故今以光信爲始

藤光信 世稱土左將監河內譽田社緣起住吉法眼所畫猶未全備普廣相公義教

乃令光信續補其末世稱兩絕 世傳光信家住鹿谷中 往往擊得丹碧光彩特奇

光信女 藤元信妻畫源氏須磨花宴花散里卷纖穠華潤極其精妙

光茂 光信子後柏原時人

光持 光茂子後奈良時人

光高 光持子土佐氏自是遂絕 光持女狩野右京進光信妻也

光高妻 善畫人物木石

休欲 光持弟子堺人唯善源氏草子彩繪已慶長中死

藤正信 字狩野四郎 其先豆州人遷住京師畫師如雪遂成一家爲東山相府畫者後

元信 藤正信初稱四郎 大炊助越前守後敘法眼名永川又號玉川

信正 雅榮助元信弟早死其所畫與元信未易辨也

祐雪 元信長子也季頼祐雪子號眞咲敘法眼 治部卿

承眞 承或作常 元信第二子

直信 初名幹信 源七郎 元信第三子號松榮敘法眼 民部卿 文祿元年十月廿一日終年

七十五 榮初用父元信印 後改用壺印名字

重信 源四郎 松榮長子敘法眼改名永德慶長二年九月十四日終年四十八

季信 甚六郎 松榮第二子敘法眼號宗周

元季 季信子敘法眼號眞說

長信 左衛門 松榮第三子敘法眼號休白長信有二子長曰昌信 左衛門 次曰清信 內記

光信 右京進 永德長子土佐光高女婿也慶長九年六月九日將赴關東而死于桑名旅

次年四十六

、貞信左近 光信長子年二十七而死

、孝信孝一作高 光信第二子年四十七而死稱右近

、安信源四郎右京 貞信嗣子實孝信第三子敘法眼號永真又號牧心齋其子時信京右

、守信采女 孝信長子寬永十三年敘法眼號探幽寬文二年敘法印宮內卿延寶二年十月七日終七十三

、尙信 初名一信主馬孝信第二子號自適齋慶安三年四月七日死年四十四其子常

信養朴號耕寬齋

元信弟子

要清 (欠)

、梅閑御厨屋伯耆 相州土人久野領主元菴部下土也

、殊牧 相州北條氏政治家畫工也

、玉樂 殊牧弟元信弟子亦就梅雨而學焉

、金玉仙 字官南氏政畫師也

、刑部大夫 不知姓名勢州神宮御師也

、祖榮 不知何人方印用祖榮字

、中興 不知何人

、周榮 不知何人

、尊善 住于高野山蓋密宗僧也

、泊子 不知何人

、堅初 不知何人

、信春 不知何人精妙逼真世以爲元信所畫者

、養雪 不知何人

松榮弟子

、榮範 前田氏也

、重鄉少名久藏後稱內膳 不知其姓冒稱狩野氏號一翁太閤秀吉家畫工也元和二年四月

三日死年四十七 一翁幼學字於根來密嚴院尤好圖繪松榮因識其材器授之家姓以爲門人時小出播磨守吉次新構一宅秀吉在臨落成觀其壁上群兒遊戲圖乃

、等伯 長谷川氏越前州人初學紹祥畫會我後到洛下爲榮門弟而千利休推譽殊甚名著于時有二子長曰等周次曰宗宅皆不及父家聲遂絕

永德弟子

、等顏 後到長州州主有雪舟畫軸一卷以示等顏學得其法變成一家自稱雲谷

作西湖徑山等圖天下稱焉有二子長曰等屋次曰等益屋先父死益嗣其業寬永中

死子孫猶在長州

、信政狩野外記 其子號素川

、光賴狩野修理 敘法橋號山樂其子山雪亦敘法橋又號蛇足軒

、友松 不知其名稱海北氏其子友雪

、乘昌 號沼津居住京師後成一家世稱之其子乘天

、一雲彌三郎 後住長崎

玉樂弟子

、都部羅氏 不知其姓名字都宮人

、三休 磐城人岩城常陸介畫師也云

、宗三 馬見谷氏本佐佐木氏也會津人盛氏家畫師也

未考

、有三 藤澤遊行上人不知是幾世人也善畫佛像

、雲翁 不知何人用木筆作菩薩像最有奇趣

、松軒 不知何許人留住攝之天滿多圖神佛羅漢像書亦精絕

、正善 泉堺人以畫爲業善佛像及人物

兆殿司宗派



聖一國師 名圓爾後花園院御宇  
正和元年賜國師號

藏 山順空 大道一以禪師

明 兆殿主

畫 傳

明 兆 如 說

宗 周 文 玖

宗 兵 部 堪  
等 舟 源 部 堪  
雪 從 舟 源 部 堪  
侍 從 舟 源 部 堪  
佐 野 從 舟 源 部 堪  
相 泉 野 從 舟 源 部 堪

右畫傳載在高野大塔正覺院藏君臺觀

右畫工便覽五卷不知何人所作聞見該博考證綜核可謂勤矣但其可恨者  
擇焉而不精已然後之賞鑑好事由是而求焉豈得無其裨益哉壬寅季冬夜  
白石老人源美於西郊茅齋燈書 ㊦